

【特別研修・在外研究成果報告書】

研究者	所属・職位	氏名
	グローバル教育センター・准教授	水谷裕佳
研究課題	米国における地域に根差した海洋文化の保全活動と環太平洋諸国との協力促進、先住民族の文化復興と他民族との協力体制の現状	
研究期間	2019年 9月 3日 ～ 2020年 3月 24日 (204日間)	
主な研究機関 又は場所	ハワイ大学マノア校	
<b>研究成果の概要</b>		
<p>2019年秋学期と2020年春学期に特別研修の機会を頂き、そのうち2019年9月から2020年3月までの7か月間は日米教育委員会フルブライト交流事業の研究員として在外研究を行った。研究のために滞在したのは、ハワイ大学マノア校大学院アメリカ研究科博物館学コースである。私が専門とする、現代に生きる先住民族に関する研究の分野において、同大学は高い成果を挙げている。先住民族にまつわる研究は同大学の様々な研究科で実施されているが、公共の場における文化や歴史の表象や、博物館における文化財の保護や民族への返還、史跡の保護、先住民と先住民でない人々の協働といったテーマを扱っていることを考慮して、上記研究科を選んだ。なお、ハワイ大学マノア校は上智大学の協定校でもある。新型コロナウイルスの世界的な流行の影響で、当初の予定よりも早く帰国することになったものの、一定の研究成果を挙げる事ができた。主な成果は以下の通りである。</p> <p>(1) 海洋文化の保全と国際関係への影響に関する研究</p> <p>少なくとも私の研究分野においては、調査のための短期的な訪問や、文献購読だけでは分からないことが多くある。在外研究を見据えて数年前から準備を整え、短期の現地調査や研究課題にまつわる論文の講読などを進めていたものの、そもそもハワイにおいては、海と陸に関するテーマを完全に切り離して考えることが難しいことを、滞在を開始してから体感した。ハワイ大学マノア校が位置するオアフ島は、ハワイ諸島の中では大きな島であるが、面積は約1545平方キロメートルであり、約1200平方キロメートルの広さである沖縄本島よりやや大きいサイズでしかない。そのような環境において、島の内陸部に位置する山地から海につながる水の流れと循環サイクルや、陸と海の両者を神聖な存在だとする価値観は、私が考えていた以上に重要なものであった。よって研究計画を変更し、海と陸のつながりの中で培われてきた文化活動や社会のあり方に目を向けながら調査を進めた。結果として、以下の2つの論文を執筆することができた。</p> <p>① 水谷裕佳「地理的境界と展示活動—ワイキキ水族館における環境と文化の展示を事例として—」『境界研究』10、23—43頁、2020年3月。(本研究は、クリタ水・環境科学振興財団国内研究助成(萌芽)の助成を受けて、在外研究への出発前に着手していたものである。在外研究期間の追加調査と論文への加筆修正を経て、学術雑誌に掲載することができた。)</p> <p>② 水谷裕佳「ハワイにおける海と陸の境界域の諸相—自然環境、サーフィン、ホームレス問題を通じた考察」(仮題)学術雑誌に投稿済、2020年10月現在査読中。</p>		

加えて、2020年4月に開催される国際学会でも研究成果の一部を発表することを予定していたが、新型コロナウイルス流行の影響により実施できなかった。今後、追加の調査を経た上で、論文として発表することを目指している。さらに、2020年10月現在、在外研究中に得た資料を基とした論文を英語で執筆中である。

(2) 先住民族の文化復興に関する研究

近年、カナカ・マオリ（ハワイ先住民）の人々は文化復興に向けた数々の取り組みを進めており、世界各地の先住民族からも注目を集めている。取り組みの1つとして、ハワイ諸島ハワイ島にあるマウナケア山の保護活動が実施されており、ハワイ大学マノア校アメリカ研究科が主催するスタディーツアーを通じてその様子を視察した。標高4200キロメートルを超えるマウナケア山は、山そのものがカナカ・マオリの精神世界において極めて重要な位置を占めている上に、ハワイ島の主要な水源でもある。マウナケア山にはすでに多くの天文台が設置されているが、新たにTMTと呼ばれる大型の天体観測施設の建設計画があり、カナカ・マオリの人々が懸念を示している。ハワイの自然や文化の主幹であるマウナケア山の保護を国際社会に訴えるために、同山の中腹にはキャンプが設置され、そこではカナカ・マオリの精神世界を体現する平和的な活動が実践されている。そのキャンプには、米国領内や世界各地から先住民族や彼らを支援する人々が訪れており、文化復興や史跡保護、教育といったトピックに関する知識やノウハウが交換されていた。世界の先住民族は国際的なネットワークを持ち、連帯して文化復興に取り組んでいるが、その最前線の様子を目にすることができた。私はすでにマウナケア山の保護活動に関する論文を発表していたが、実際にキャンプ地を訪れ、同行したハワイ大学マノア校の教員やカナカ・マオリの専門家から詳しい説明を受けることで、さらに理解を深めることができた。今後、その内容を、論文や、文化復興に関する授業に反映させる予定である。

(3) その他

ハワイ大学マノア校では、公開講演の機会を2回頂き、これまでの研究成果の一部や、在外研究中の研究に関する考察を発表することができた。さらに、大学院の授業を聴講し、博物館学の諸理論について専門的に学ぶことができた。博物館学コースは多数のスタディーツアーや実習を実施しており、その多くに参加することで、ハワイにおける博物館や史跡の運営、管理の現状や、現地の先住民族やコミュニティとの協働について、体感的に学ぶことができた。さらに、コロナ禍による緊急帰国後も、遠隔で同大学の図書館に収蔵された資料を利用したり、オンラインで実施された講演会に参加し続けたりすることができた。加えて、フルブライト交流事業の一環としてミネソタ州で開催されたセミナーで現地のNGOや高等教育機関の活動を視察したり、ハワイに派遣されていた他国のフルブライト研究員と交流を深めたりすることによって、今後の教育研究活動にまつわる多くの知見を得た。